

# わたしの目にあなたは価高く、貴く

—イザヤ書43章4節—

# 部会だより

キリスト教  
保育連盟  
神奈川部会  
2010年2月10日  
第117号

## 『自己評価三割控除』

日本基督教団横浜菊名教会 附属菊名愛児園

園長 戸波 義憲



### 聖句

だから明日のことまで思い悩むな。  
明日のことは明日自らが思い悩む。  
その日の苦勞は その日だけで十分である。

—マタイによる福音書6章34節—

卒園季節、定番の曲『思い出のアルバム』よろしく、長くもあり短くもあつた一年を振り返り、それぞれの仕事について、自己評価をしてみることに致しましょう。

総合得点七十点の方、あなたは誠実に仕事に取り組み、十分にその責務を果たしました。私の体験的自説は、「仕事の採点は百点から『三割控除』を満点とする」というものです。八十点の方は少々頑張りすぎです、疲れた体と心を労わってあげてください。百点の方は、間違いない過労死の頂きを登りつめようとしています。目がかすんでくる前に下山することをお勧めします。

二〇〇七年の秋、運動会を目前に控えながら、私は過労のために一カ月の入院生活を余儀なくされました。入院直前は、まるでスーパーマンにでもなったかのように、信じられないほどの分量の仕事を、いとも簡単にこなす毎日でした。が、そのとき、すでに私の体は、疲れや痛みを感じできないまでに壊れていました。

退院後、今日に至るまで心掛けてきたことは、先に申し上げた「三割控除」の原則です。保育の仕事には終わりも完成もありません。やろうと思えばいくらでも新しい仕事を創り出すことができます。それをやり続けたならば、間違いない心も壊れ、私のよ

うに多くの人々に迷惑をかけてしまうことになるでしょう。一割は私のために、もう一割は隣人のために、最後の一割は神さまのために、合計三割の余力を残すことが、すべての人を、そして神さまをもハッピーにする、保育という仕事をする上での勘所であると思うのです。

思い起こしてみると、スーパーマンと見紛うばかりに獅子奮迅であった頃の私は、いつも明日のために働いていたように思います。今、まさに子どもたちと向き合っているときにも、頭の中では明日の仕事の段取りをし、眼前に並んでいる可愛らしい顔さえも、どこか上の空で眺めていました。明日のことを思いわずらうばかりに、今日を、今を、楽しむことを怠っていたのです。

子どもたちは、実に今を生きています。今、目の前にある対象に興味を抱き、それを味わい、喜んだり、悲しんだりしています。このような子らと生きていくためには、保育者もまた、今を生きる者にならなければなりません。「だから、明日のことまで思い悩むな」(マタイによる福音書六章三四節)。イエスさまの御言葉が、今の私には身にしみえます。

皆さんのご健康をお祈り申し上げます。

## 第四十二回 夏季講習会報告

希望が丘教会附属めぐみ幼稚園

田名網 仁

今年も夏の終わりに、キリスト教保育連盟神奈川部会の夏期講習会が行われました。会場は昨年に引き続き、関東学院大学金沢八景キャンパスを貸していただけました。

最初に全員で開会礼拝の時を持ち、礼拝説教を菊名教会の戸波義憲牧師がして下さいました。その後、それぞれ希望した分科会に移動し、A分科会では小宮路敏先生が「つたえよう手のぬくもりを」、B分科会では佐川真弓先生が「子どもに聞かせたい聖書のお話」共にあるよるこびへ」、C分科会では伊志嶺美津子先生が「保護者との関わり方」保育に活かすカウンセリングマインド」、D分科会では宮崎扶子先生が「自分の好きなあそびで子どもは育つ」子どもの生きる力を信じて」、E分科会では東卓治先生が「うたの表現」、F分科会では小野慈美先生が「保育者への神様からの応援歌」、G分科会では大豆生田啓友先生が「保育のこと・気になること・親のこと・なんでも話そう」というテーマでお話して下さい、良い学びの時を持たせて

いただきました。おいしいお弁当をいただいた後、全員で集まり、四名の永年勤続の先生を祝福いたしました。その後、全体講演会が持たれました。今までは午前中に全体講演会を持つというのが定着しておりました。しかし、今回は講師の松居直先生が午後であれば引き受けることが可能であるということでした。定着していることを変更するというのは、なかなか大変なことですが、是非、お話を聞かせていただきました。松居直先生ですので全体講演会を午後に行いました。テーマは「言葉が消える時代に」でした。先生の豊かな表現・言葉に触れることができ、あつという間に時間が過ぎてしまいました。キリスト教保育連盟神奈川部会の夏期講習会は毎年、素晴らしい講師が与えられ、良い学び・交わりがあり新学期への活力を与えられます。

今年は一三〇名の先生が参加され、充実した時となったと思います。色々と用意して下さい、陰で働いて下さった夏期講習会係の方々、関東学院野庭幼稚園・六浦幼稚園の先生方、ありがとうございました。



### A分科会報告

捜真幼稚園 寺田 千栄

昨年に引き続き、小宮路敏先生をお迎えることができました。二年目にも関わらず、多くの参加者が与えられ、皆さんの期待を感じました。

分科会が始まる直前まで、先生が用意してくださった教材が届かないというハプニングもありましたが、先生は「届かなかつたら、違うプログラムを考えたから大丈夫」と慌てる私を感ってくださいました。先生はいつも全てを神様にゆだねて、その時を一所懸命に生きる姿を見せてくださいました。教材や歌もたくさん教えて下さいました。何より先生の存在を通して、神様の愛を感じ、保育者として子どもたちの前に立つ力を下さいました。きつと参加者の皆さんは、早く子どもたちに会いたくなつたことでしょう。

### B分科会報告

ひかりの子幼稚園 豊嶋ときわ

先生は始めに「聖話は幼児に聞かせる聖書のお話で信仰の基礎を与える心の栄養」と教えて下さいました。そして保育者はまず聖書の中から幼児が聞くのにふさわしい題材(別紙でプリントが配られました)を選びます。テキストが決まったらその箇所を十分に読み、何を伝えようとしているのか学びます。聖話の構成は導入・展開・頂点・終結を原則として、長くないように四十分位に納めます。

また先生は、「イエスさまが外に出て、花や鳥を見て空の鳥をみてごらんとやさしく語りかけた様に子どもたちにも気軽にやさしく聖話をしてみてね」とも言われました。

グループの中には若い先生も多く、聖話を語ることに重荷や課題を感じていらした方も、色々な場面で聖話を素直に自然体で語っても良いとの示唆を与えられ、「これから聖話をたくさんしていきたい」との声も聞かれました。

## C分科会報告

関東学院野庭幼稚園 小高 千恵

カナダからの予防型教育プログラムの1部を体験学習しました。従来の専門家による指導型とはことなり、親・参加者を中心に据えた参加型学習をフアシリテーション技法を用いてサポートしていきます。互いに持っている力と知恵を出し合い、自分自身に信頼する感覚を経験しながら、子育てに必要な知識や技能を学び、親としての自信を築いてゆけるようにアプローチする方法です。

日頃保護者から多くの相談や、時には過度な要求を受けます。答えを出さないといけないと思いがちですが、相手の気持ちや当人にとつての意味を、会話の中から聴く事が大切であること。さらに、相手の心の動きや気持ちの浮き沈みに合わせ、言葉少なに寄り添うことを心がけることが必要です。安全で信頼できる雰囲気作りと物事の価値観を評価せず豊かな相互関係作りにつながります。

後半は、具体的に懇談会等で活用できるスキルを学びました。保育者自信も気づき変わっていかれる可能性があることに希望があります。

## D分科会報告

御濠端幼稚園 島田 美緒

「自分の好きな遊びで子どもは育つ。子どもの生きる姿を信じて」とのテーマで宮崎扶子先生より、お話を伺いました。

保育者は、計画を立てるとその通りにしようとしてしまうが、計画はあくまでも計画であつて、必ずしも実行しなくても良い。大切なのは子ども達は何を欲して何をやりたいかである。

遊びの中で様々な体験をします。自分の思いを言えた時、譲った時、譲ってもらつた時、子どもに話をし、意識化させてあげることが大切であり、それが喜びとなり、「よし、こうしよう」と変えられていく。トラブルのあつた時にも、仲間同士でやりあうことが大切。子どもは理論ではなく、身体で覚えていくので、何でもかんでも先生が入るのではなく、その子が主体的に幼稚園の一員になつていけるかどうか、一人ひとりの課題をよく理解しサポートしていくことが大切である。

具体的な例を通して、保育者の役割とは何かということを変更して考え、学ぶ時となりました。

## E分科会報告

平和学園幼稚園 河窪 悦子

E分科会では四十名が東卓治先生よりゴスペル体験をさせていただきました。

学びの始まりは発声法です。それはテニスボール大のボールを使う方法で、右手から放物線を描く様に投げ上げた時に息を吸い、左手で受ける時に吐くというやり方でした。子どもが行う時にはバレーボール大がよいとのことです。少し慣れたところで「かえるのうた」を歌いながら行いました。この時、声の高さを変えて歌うことで『低い↓お父さん』から『高い↑赤ちゃん』と表現でき、なりきって歌うことで子どもは自分はいろいろな声が出るということがわかると教えて頂きました。その後「聖者の行進」など四曲のゴスペルを歌いましたが、歌う時には言葉を丁寧に、言葉の意味を考え、言葉を共有することの大切さ等について学びを深めました。

チャペルで行われたため、参加者全員の声が会堂全体に響き、共に皆で心と声を合わせて歌う喜びを味わうことができたと思います。

## F分科会報告

田園江田幼稚園 木ノ内ゆり

F部会では小野慈美先生の講演を伺い、自分の置かれている保育者という立場の重みを深く実感したと共に、希望と励ましを与えられました。

日々の生活の中で、子どもたちや保護者の方々との人間関係に悩み、時には自信を失いかけることもあるのが現状です。小野先生のメッセージから、「コミュニケーションの鍵は、送り手が何を意図したかではなく、受け手がそれをどのように受け取ったかにある」という言葉がありました。自分の見え方は正しいと思いがちですが、相手は多面性であるかも知れず、相手の立場に立つて理解することの大切さを改めて感じました。聖書の中で、「敵を愛し自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ十二章十四節)とは、"相手を好きになる"ということではなく、相手の存在を大切にすること。"という小野先生の言葉を念頭に置き、これからの保育に活かしていきたいと思えます。子どもたち、保護者の方々のために祈ること、それが神様から保育者に与えられた使命であると信じ、大切にしていきたいと思えます。

## G 分科会報告

関東学院野庭幼稚園 鈴木 直江

初めに講師の大豆生田先生より、最近の幼児教育を取り巻く現状をお話していただきました。保育指針が変わった今、保育園が幼稚園機能を持つようになり『幼児教育とは何だろう』と問われているのです。私たちは、子どもが主体的に学ぶ(子どもがやりたい事を十分にやる)という保育を大切にしていこうと、親・家庭を含めた子育て(劇的に変化している子育ての状況の中で困っている親子をどのように支えていくか)を考えていく事が今の時代に必要なのだと改めて感じました。

その後三つのグループに分かれて話し合いの時間をもちました。その中で『気になる子どもの事』『保護者の思い』などが話題として生まれ、大豆生田先生と子どもの「つまづき」にどのように保育者が気づいていくか、親と一緒にどのように子育てをしていくかなどを一緒に考えました。時間が足りない位、講師の先生のお話と参加者の方々との話し合いが充実していました。

日々忙しく保育をされている先生方、他園ではどのように保育が行われているのか、なかなか知ることは難しいですね。

そこで今回は誕生会の様子を教えてください。



### 想いを込めて...

野毛山幼稚園 石井 園子

子ども達が楽しみに待っている誕生会。子ども達だけでなく、お母様方にとっても特別な日です。

野毛山幼稚園は祝福式を中心とした誕生会を行っています。私達の保育の中心にはいつも神様がおられます。誕生会は保育者のその想いをお母様方と分かち合う大切な機会でもあります。

祝福式の前に、誕生児のお母様方が集い、牧師より神様の言葉を通してメッセージがあります。祝福式の前にメッセージを心に受けることによつて、お母様方一人ひとりが想いを持って祝福式に臨まれていると感じます。

祝福式のティーパーティーでは、パーティーカードをプレゼントします。私達の園では、担任が作るのではなく、誕生児の姿を思い浮かべながら、全ての保育者が製作に携わり心を込めて作ることに意味があると考えています。子ども達一人ひとりの育ちを全ての保育者で見つめている、その想いが伝わればと思います。

誕生会の次の日、「先生、昨日はありがとうございました。」と声を掛けて下さるお母様方の表情に特別な時を共に分かち合い、心が通じ合えたのだと、とても嬉しい気持ちになります。

もうすぐ次の誕生会です。私達は祈りながら準備します。子ども達が神様と周りの人々に愛され、心も身体も大きく成長していきますように...

まもなく卒園・入園の春、おすすめの本をご紹介します



### ぐりとぐらの1年間

中川李枝子・文 / 山脇百合子・絵

福音館書店

冬はそりあそび、春には花の種まき... 心地よい文と絵でつづる楽しい絵本です。

定価1,365円(本体1,300円)



### ピッキーとポツキー

嵐山光三郎・文 / 安西水丸・絵

福音館書店

うさぎのピッキーとポツキー。なかよしのお花見です。

定価945円(本体900円)



## 第二回講演会報告

鶴沼めぐみルーテル幼稚園

前田 恵里

十一月十八日(水)、野毛山幼稚園にてクラーク学園和泉短期大学 松浦浩樹先生をお招きして講演会が行われました。「自分を生きる」共にある喜びへ」をテーマに、先生が幼稚園で自身の保育の経験からお話を伺いました。大学卒業後、当時はまだ

数少ない男性保育者としてちいさな子どもたちとどう向き合うか、毎日が新鮮で理解不能な世界を悩み、苦労されながら子どもたちから見えてくる様々な発見を楽しみ、記録を取り、考えて見つめなおしていく日々の中で、自由遊びのおままごととの事例から年代が変わるとともに子どもたちのおままごとの内容が変わっているということ。子どもたちの家族関係や生活面の欠如。しつかり遊ぶ(生活の)中で、笑う・交わす(目を合わせる・話す・聴く)・泣く・喧嘩する。子どもたちが育っていくために当たり前に思うようなことができていない今の子どもたちのために、あえて『しつかり』を付け加えなければならぬ現状の問題に保育者が目を向けて、保護

者にきちんと幼児期に「しつかり遊ぶ」大切さを伝えていかなければならない。保育は、目に見えないもの、こそ目を注ぐことが大切である。祈り

Ⅱ生宣(生きる宣言)、毎日就寝前には一日を振り返り、明日は子どもたちとどう生きるかを考えて、祈ることで頭の中を整理することが重要であることを教えていただきました。

我々、保育者も互いに『しつかり』育て合ひ、自分を生きるⅡ子どもと生きる自分Ⅱ喜びのある自分Ⅱ共にある喜びへとつながり、自分が生かされる喜びを感じられ、その中心に子どもたちがいるということが、先生のお話で強く心に刻まれました。豊かな学びの時を大勢の先生方と持つことができました。子どもたちに向けられる保育者の使命は何かを私たち自身があふれるものとなりますように。子どもたちと過ごせる日々を与えて下さる主に感謝いたします。

## 主任研修会報告

戸塚ルーテル教会附属幼稚園

石黒 晶子

一泊主任研修会の内容が昨年より変更となり、保育環境を中心に見学と学び、交わりを行うようになってきました。今年度は東洋英和女子学院付属かえで幼稚園の「ご好意により、十月二十四日(土)、秋の彩り濃いかえで幼稚園に於いて「遊びが生まれる環境」についての研修会を持つ事ができました。

園に入つてすぐに、食欲の秋を刺激する美味しい香りに包まれて「香りも全てが環境ですから」の言葉に加えて「みんな食べる事が大好きなんです」と嬉しいお話に大きな期待を胸とお腹に膨らませ、園内の見学をさせて頂きました。

各保育室は秋の自然や様々な素材に触れて、親しむ遊びを思う存分できるようになっていました。それを活かして用いて展開する遊びなど、各年齢毎にそこで楽しそうに遊ぶ姿が見える様でした。特に初めて食したドンダリの味はアーモンドを思わせるもので、五感を刺激する環境の深さを体験することができました。

園庭でも木登りや屋根登りができる階段付きの手作り小屋や、木々の隙間から様子が見える探検の小路等々、ドキドキワクワクがいっぱいの空間でした。

お昼にさしかかり、もう一つの楽しみが用意されていて、園長先生により手作りパンの講習を受け、竹に巻いたパン生地を園庭の七輪で焼き、思いおもいのパンに舌鼓した後は、一流ホテルのようなバイキングの昼食に、研修というのも忘れる程の満足感(満腹感?)でした。

かえで幼稚園で大切に行っていることを園長先生よりお聞きし、スクリーンに映した写真で子どもたちの遊びの様子を見せて頂き、手に取るように、子どもと保育者の関わりや細やかな配慮と手作りの人的・物的環境の中で生まれる「遊び」の楽しさを感じることができました。

子どもの興味や関心を刺激して、一人ひとりの五感と豊かな感性に働きかけること、共に園生活を楽しめ、育ちあつていく子どもと保育者のあり方を学び、感じる事ができました。

実りの多い秋の一日を参加者皆で感謝することができ、これからも多くの保育者が共に研鑽できる楽しい研修会が持てるよう折り勤めたいと思います。



# 《役員会報告》

書記 鈴木裕美

## ◆園長主任研修会

一月二十六日(火) 十六時半～

講師 古荘純一先生(青山学院大学  
教育人間科学部教授、小児精神科  
医) 会場 清水ヶ丘教会

## ◆クリスマス礼拝献金送付先

献金総額は二十六万六千八百〇〇円、  
横浜訓盲学院に八万六千八百〇〇円、  
国境なき医師団に六万円、チャイル  
ドファンドジャパンに六万円、陸前  
古川教会附設古川幼稚園に六万円  
を送付いたしました。

## ◆全体主任会

二月十二日(金) 十五時半～

会場 平塚教会

## ◆神奈川部会ホームページの件

部会としてのホームページを立ち  
上げるべく準備を進めております。  
幼稚園探しをしておられる方の一  
助として用いられるようにと願っ  
ております。

## ◆二〇一〇年度総会

四月十三日(火) 十五時～十七時

会場 清水ヶ丘教会

## ◆訃報

野毛山幼稚園副園長 金児和子先  
生が一月七日に召天されました。

## 金児和子先生を偲んで

神奈川部会会友 佐川 真弓

金児和子先生の突然の訃報に接し、  
驚きと不思議さに駆られました。数ヶ  
月前チャペルコンサートにお招きい  
ただき、笑顔で迎えて下さり、この礼  
拝堂で美しいヴァイオリンの演奏を  
聴いたばかりでした。あの時はお元氣  
でしたのにも。神様のご計画は、まご  
とに計り知ることはできません。心を  
静めてこの現実を受け止める他ござ  
いませんでした。

残された金児栄治先生、奈良先生、ご  
夫妻、ご遺族の皆様の上に神様のお慰  
めと主に在る平安を心よりお祈り申  
し上げます。

さて、和子先生は二〇五、六年しば  
しば野毛山幼稚園の行事に私を招い  
て下さいました。私が現職を退いて時  
間的にも余裕ができたと思われたの  
でしょうか、やさしく気遣って下さる

お心に動かされ、遠慮なく出かけて参  
りました。園児さんたちと共に運動会  
やクリスマスを楽しむひと時はこの  
上ない喜びでした。園児から元氣をも  
らい、保育者、保護者の方々の活動を  
つぶさに拝見し、多くのことを学ばさ  
せていただきました。

野毛山幼稚園は創立以来、園長先生  
ご夫妻によって基督教保育の理念を  
掲げて、戦後の厳しい道のりを走りぬ  
いて現在に至りました。戦後開拓の時  
代は、いろいろご苦労もありだつた  
と思いますが、いつも笑顔を絶やさず  
地域に根を下して宣教と幼児教育に  
尽くされました。保育にあつては園長  
先生と和子先生を中心に、保育者たち  
と共に研鑽の場をもちながら、よりよ  
いカリキュラムを作りあげて実践さ  
れてこられました。

和子先生と私は五十年來のお交  
わりをいただき、基督教保育連盟神奈  
川部会の活動を通して、より親しくさ  
せていただき感謝いたしております。

先生は保育者のみならず、牧師夫人  
としても喜んで教会のご奉仕にあた  
られ、土曜日には礼拝堂のお花の係や  
会堂の準備、目に見えないご配慮など  
の献身的なお働きは、神様に守られた  
お人柄と思ひ、教会、幼稚園にとつて  
も貴重な得がたい存在でした。

すでにその精神は奈良先生ご夫妻  
に継承され、金児栄治先生と共に、こ  
れからの時代により大きく発展され  
てゆくことを願います。

今日是在りし日の和子先生のご生  
涯を偲び、先生を通して与えて下さつ  
た神様の愛を思い起こし、今までいた  
だいた数々のご厚情を心に止めて感  
謝を申し上げます。

## 編集後記

原稿を寄せて下さった先生方に心  
から感謝致します。他園での保育を  
知り、保育を見直す機会となればと  
今回は誕生会の様子を載せさせて頂  
きました。皆様の園での保育の取り  
組みで工夫されていること等あれば  
お知らせ頂けると幸いです。

間もなく卒園、そして入園の春。忙  
しい毎日ですが、どうぞお身体御自愛  
下さい。

## 発行日

二〇一〇年二月十五日

## 発行所

茅ヶ崎市芹沢九一三

ひかりの幼稚園

## 編集者

神奈川部会 広報担当

